

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	慣れ親しんだ地域との関わり合いを大事にしてその人らしく生活できるように理念を作っています。作成された理念はホーム入り口に掲示されています。	
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全てのサービスは理念に基づくものと認識し、また、職員間の朝礼や会議等で再認識しながら理念の実践に日々努めている。	
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	施設内に理念を掲げ、利用者、家族には入所時からご理解いただけるように努め、定期的な家族会や運営推進会議には地域代表等、参加して頂いた方々に説明し幅広く浸透していただけるよう努めています。	
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	地域の行事に参加した時などに声をかけていただいたり、また個別ケアのひとつとして自宅への一時帰宅、ドライブなどで近隣の友人との交流の際に、気軽に立ち寄る場所である事を伝えるように努めています。	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町や地域、学校の行事等に積極的に参加させて頂いたり、老人スポーツ大会などにも出かけて地元の人々との交流の機会を作ったり、自治会によっては面会に来てくださったりという活動がなされています。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	グループホーム便りに認知症に対する説明や相談受付など行ったり、運営推進会議などでは地域の方々に認知症を理解していただくための説明を行ったりしています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員間で、「自己評価、外部評価」を議題とし反省点や改善点を話し合い、取り組みの状況が適切であるかどうかを判断し、入所者の方々がよりよく暮らせるように改善に努めています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議でグループホームの現状や活動報告を行い意見交換を行っています。		運営推進会議を通し広認知症に対する理解を深めていただけるような環境作りに努めまたその出席者より、自ら参加したいと言う声もいただけるようになってきています。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	質問、不明な点などがあつた場合には連絡しサービス等に不備の無いよう努めています。		常日ごろより、来客者や面会者の意図に配慮し、聞きやすい環境作り、意見や要望を伝えたり、質問内容に関しても納得いただけるようなサービスを図りたいと心がけています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会などで、学ぶ機会があつた場合や、議題に挙がったりしたときは、会議等で話し合い皆で理解を深めています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の虐待防止委員会の会合に出席し虐待の知識を深めそれを会議等で出席者が発表して職員全員で知識を共有するように努めています。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は納得いただいた上での書類作成をおこなっております。分からない点がある時は理解して頂けるまで説明すると共にまた、日頃より信頼関係の構築を図り質問疑問点を聞きやすい環境作りに努めています。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	不満や苦情はいつでも受け入れるようにし職員も話しやすいような対応をするよう努めています。意見等があった時、また食印鑑でも疑問があった時は早急に職員間で話し合い対応を検討しています。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月各利用者へ写真付の便りを送付しています。職員の異動などもその時点で、便りに掲載します。健康状態に異常があったときにはその都度電話報告を行っています。金銭管理は家族会などで確認していただいています。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	まず、入所時の重要事項説明の場で、お話し、意見、苦情箱も設置してあります。家族会でも機関があることを説明し、また事務長、施設長にも気軽に相談して頂けるよう話しています。また併設の老人ホームにも意見、苦情箱が設置しており家族会や運営推進会議等で利用に際しての考慮しています。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議などで事務長、施設長同席により話し合いが行なわれています。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態の変化における病院受診や、行事への参加。また、家族の要望などに対応できるように勤務の調整は柔軟に行っています。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動の場合は交代の職員の研修期間を設け、慣れて不安のないように配慮し行なっています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	隣接の特養やデイサービス、ヘルパー事業所との交流や情報交換もありますが、研修の機会を通じて他施設の同業者と交流する機会に、サービスについての取り組み等意見交換を行っています。相互間の訪問については個人的ケアのひとつとして取組んでいる方もいるが、個人情報に対する配慮や各施設において認知症状や介護度の重度化により援助が難しくなっている事はこれからも課題である。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		勤務体系は無理なくまた、人員を増員していただいて、余裕のある勤務状態です。また、その間に自己学習を行ったり、他施設でのボランティア活動等、個人や職場全体で行える環境が整えられています。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		事前の施設見学や体験などを経て十分コミュニケーションを取っていただき納得の上での入所が好ましいのですが、実際はある程度周りの切羽詰まった状況の中で入所になれる方が多くご本人の理解が薄い事があります。認知症もありますが、できるだけ本人の訴えに傾聴して、日々の中で信頼関係を構築しています。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との話し合いの中で支援の見極めを行ないよりよいサービスができるように努め、他サービスについては選択肢のひとつとして説明を行っています		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	基本的に日常の流れなどへの参加は無理強いはしません。今までの生活を尊厳し、愛着のあるものや馴染みのものがあれば持って来て頂いて安心できるように配慮しています		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者生活歴や会話の中から新しい発見や教わる事も様々です。喜怒哀楽の喜び楽しむ事は共有し、怒り悲しみの訴えには傾聴し、納得する事で、共に相互間の理解を深め、楽しく過せるよう努めています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入所の際に、グループホームという施設のシステムについてご理解いただき、家族と一緒に利用者本人を支援できるような説明を行っています。また、時には家族の協力をもらいながら一緒に考えて頂けるよう相談しています		家庭菜園や郷土料理、得意とされる歌や踊りなど披露して下さるような雰囲気作りをしています。家族の方にも面会にくるのを楽しんで頂けるよう努力しています。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会の際はお茶を利用者と一緒に勤めて、家族だけの時間を共有できるように支援しています。また職員とも気軽に話せるように雰囲気作りに努めている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅へのドライブ、墓参りなど行ない、家族や馴染みの方々とふれ合いの機会を作っている。併設のデイサービスからの親戚、知人の方も時々面会があり、自室やソファへ案内し、気軽に面会に来やすい環境作りを心掛けている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	性格や能力によってお互いを意識できない方もおられる。独りの時間を好まれる方もいるが、完全に孤立する事なく適度の会話を援助したり、利用者同士の会話や交流に関しては、利用者間で自然と声の掛け合い近況を話したりして和やかな雰囲気が見られる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院などによる退所でも退所の際に、退院後の不安などの相談やサービスを継続として行ない、断ち切ることはなく、聖光会全体の事業所でもフォローを行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の流れを無理強いする事はほとんどない。困難なケースについては、ケース会議や日常の話し合いの中で話し合うようにしている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所段階において、利用者本人家族からの聞き取り等で、暮らし振りを把握するが、書面上で図れない性格や癖、習慣などを日常生活を送る中で理解できるよう、職員間で話し合いより良いサービスができるよう努めている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の体力や心身の状況によって異なるサービスを行なっている。職員はその日の利用者の状況を見ながら把握し判断できるようスタッフ同士の伝達連絡を行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族や本人との話し合いやサービス担当者会議により、サービスがよりよくできるように介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	サービス担当者会議、カンファレンスなどにおいて職員間での話し合いを行なっている。家族、本人の意向や希望に添えるように変更をし現状にあった計画を作成している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の個別の記録や職員間の情報交換ノートなどで情報を共有しながら日々のケアやサービスに活かしている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族、利用者の状況に応じて聖光会の各事業所への相談などもあり要望に応じた対応がとれている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の方や学校、警察、消防などへ訓練などの協力の働きかけを行なって必要時は支援して頂けるよう働きかけている		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人、家族からの希望や相談に応じて必要性があれば対応します		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	特に行なっていないが包括支援センターとは総合的に協働できるよう連携は図られている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	担当医による往診やかかりつけ医師への相談、報告などにより、緊急時への対応など適切な医療を受けられるよう支援している		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>本人の希望を会話から読み取り、墓参りであったり、自宅までのドライブや、本人の希望として家族へ面会を無理の無い範囲でお願いしたりしています。</p>
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>利用者希望でなじみの理容室に定期的に外出される方もいます。</p>
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		<p>おやつなどの嗜好物は本人の希望に応じてショッピングにでかけたり支援しています。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	日中は定期的にトイレに誘導し、紙パンツの使用は控えていますが機能的に支障のある方については紙パンツを使用しながらトイレ介助を行なっています		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外の平日の午後から入浴を行なっています。時間や曜日の希望はあまりなく入浴を楽しみにしておられる。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	個室になっているため自由に行き来できるので休息したりリビングソファでテレビ鑑賞しながらゆっくり過ごされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみをお願いしたり、得意であられる歌を披露していただいたり、会話を楽しんでいます。特養行事の保育園幼稚園児とのふれあいや、地域のお祭りなどの行事に参加、個別ケアのひとつとしてショッピング。自宅へのドライブ墓参りなど楽しみにしてくださっている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で所持できる方にはお店で品物を買って支払いをしてもらっています。自分で管理できない方についてはご家族から預かって品物を買われるときにレシートなど確認のもとに支払いを行なっています		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その方の希望によって買い物に出たり、散歩に出たりしていますが一人で戸外に出られる事はありません。必ず職員が付き添っています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	帰宅や墓参りなど他の利用者と共に出かける事もあります。家族の迎えがあり外食など楽しめる事も歓迎しています		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に電話をする希望がある時は電話をかけ話しやすいようにしています。またご家族からも時々電話をして頂けるようお願いしてあります。何かの変化がある時はこちらから電話し近況を話しています		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時は居室やリビングで利用者を含め当人同士でゆっくりすごして頂けるようにしています		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で身体拘束廃止委員会をつくり代表が毎月会議を行なっています。また全職員で会議等の時間を用いて再度話し合い正しく理解できるよう取り組んでいます。入居者自身の声が無駄にならないようスタッフ間も本人の訴えを共有できるようにしています連携を撮っています。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵はかけないよう衆知し、本人の行動に関しても庭に出る際は本人の意思に任せて怪我の無い範囲で側に付き添い支援している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日常生活における行動は、所在や行動安否は確認を行ないながら、自由に過ぎて頂いている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	認知症状において、個別のケアとして要する以外は不用意に必要な物品を保管し管理する事は極力しないよう取り組んでいます。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	職員全員普通救命講習を受け知識を学ぶようにしています。各棟に防火管理責任者をおき事故防止に努めています。またヒヤリハット・事故報告書などを通じリスクマネジメントがなされるよう会議等で再検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	普通救命講習は受け事故防止に努めています。また急変時や対応などはマニュアルを用意しておりますが、実際起こった事故や救急時はその間の対応について、会議などで検討している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、風水害の訓練を定期的におこなっています。台風時など法人内の施設に避難する等の対応をおこない他職員にも協力を頂けるようにしている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	転倒など事故の起こりうる入居者については抑制をしない事は当然であるが、事故のリスクがあることもご家族と話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝礼や夜勤の申し送り、勤務引き継ぎノートなどによって情報の共有をおこなっている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	使用している薬については状態の変化があったとき、薬の追加があったり変更がある時はその都度用法や用量などの書面にて報告し、またいつでも確認できるようにしてあります。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排便状況を記録している。食事量、水分量、適度な運動も促しているが、利用者によっては医師による内服による排便コントロールを必要としている方もいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアに努めています。義歯の方ははずして洗浄しうがいしています。逆流が見られる方については再度うがいを勧めたり、口腔内に唾や痰が絡み易い方についてもその都度のケアを心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事量、水分量を毎日記録して状態に応じて対応しています。	隣接の特養の栄養士の献立を用いております。誕生会や行事に応じてまた、利用者の希望に応じて変更する事もあります。食事や水分摂取量は記録を残し、時として摂取が思わしく無い時は引継ぎの際など申し伝え、利用者に対する声かけや、嗜好物などで対応しています。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルの作成を行ない予防や取り決めの実行を行なっている。必要に応じて皆で周知できるよう声掛けをおこなったりしている。	
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	布巾、台ふき、まな板調理器具などは定期的に除菌をおこなったり、乾燥機にかけたりしている。冷蔵庫は定期的に掃除を行ない使いおきしないよう新鮮な物を買ひ、入れ替えるようにしている	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関の周りは花を飾ったり、利用者の近況を張り出している。お天気の良い日はできるだけ開け、来客の際はすすんでスリッパを用意するなどして、見えない壁が無い様に努めている。	
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感のある植物を飾ったり、ぬいぐるみや自宅から持って来られたご家族の写真などを飾っています	
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの位置をみんなでテレビを見て過ごせる位置に設定したり、一人座れるようにしたりしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に本人の馴染みの物や大切にされている物を持って来て頂けるようお願いしています。家族の写真を飾ったりされている方もいます。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	時間を決めて換気を行ない、温度調節など季節によって行なっている。個人の感覚によって調節もしている		脱臭剤を置いたり、また、定期的に換気を行っています。寒がりの方や暑がりの方もいるので、個別に、ひざ掛けや上着の調整をする事で、利用者の状況に合わせる様に努めています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや浴室ローカ等掴まりやすいところに手摺などがあり安全に歩けるよう工夫されている。又玄関などには座れるように椅子も置いて靴の脱ぎ着が安全にできるようにしているが、建物のハード面で対応しきれない部分についてはスタッフがカバーできるよう、スタッフ間の連携を図るようにしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	トイレや浴室に大きな表示をしたり居室に番号の他果物の絵を飾り目印にしたりしている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	駐車場の桜の木の周りで散歩したり、歌会を開いたりお茶会をしたりと外回りでの空間活用も楽しんでおられる。園外の田圃や畑の景色の移り変わりも楽しみのひとつである。		よく玄関側の街路樹の下に集い、歌を唄ったり、外の景色を眺めたりして室内だけで過す事がないように空間活用をしています。

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/>	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の生活において利用者の状況は様々です。一人一人の個性と、健康状態や気持ちを察しながら、楽しみのある生活を支援していきたいと思っています。

併設の特養、デイサービスの看護師との連携をとり日々の健康管理に努め、またできるだけ入居者の方の意向を組んで個別ケアとして墓参りやショッピング、遠足等の外出を企画する事で楽しみを共有したり、洗濯物たたみや調理を手伝っていただき残存機能の維持向上に期待しながら、その方に合わせた生活ができるように支援して行きたいとおもっています